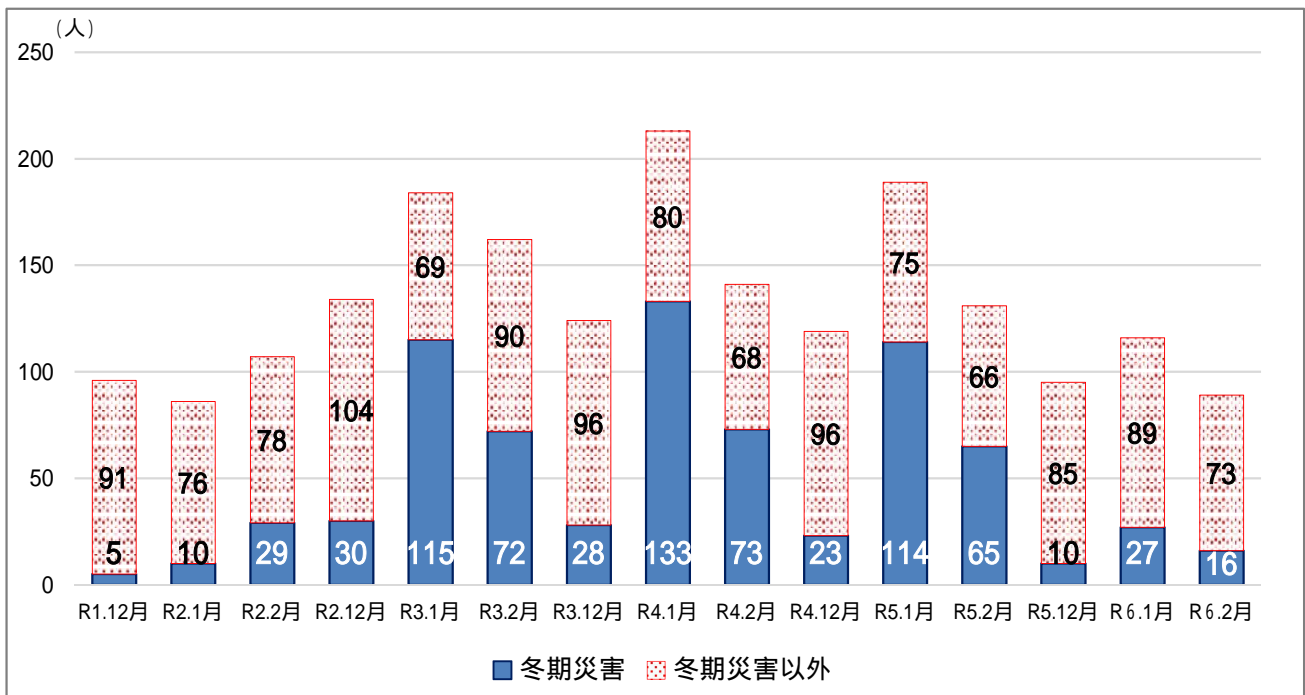


山形県内における冬期型災害発生状況

令和元年12月から令和6年2月までに発生した労働災害発生状況（休業4日以上、労働災害で新型コロナ関連を除く）は以下のとおりです。

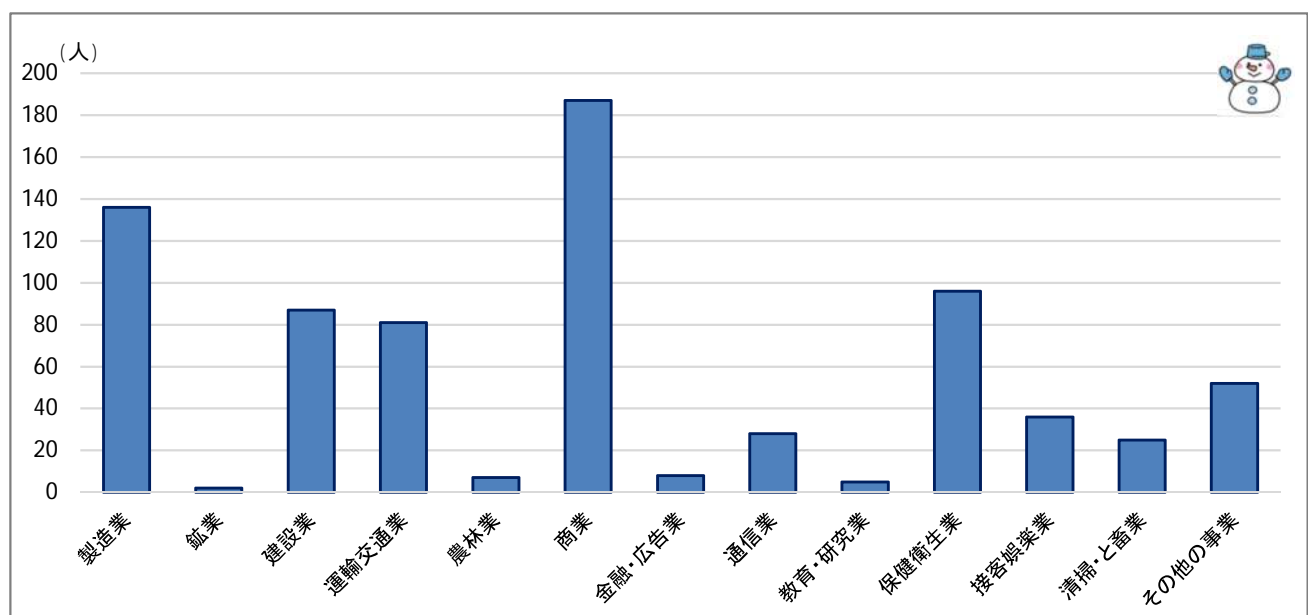
1. 月別労働災害発生状況

気象庁発表によれば、令和元年12月から令和2年2月、令和5年12月から令和6年2月は「暖冬」の年であったとしているが、月別の労働災害発生件数（休業4日以上、新型コロナ除く）をみると、暖冬だった年は冬期型災害が少なかった一方、それ以外の年には冬期型災害の占める割合が多い。



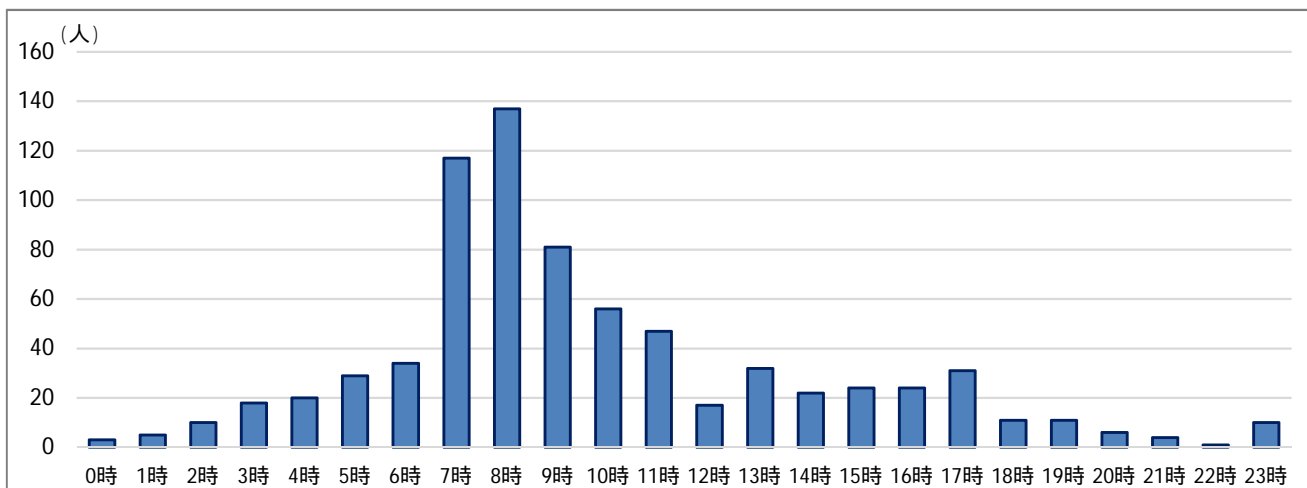
2. 業種別冬期型災害発生状況（過去5年間）

冬期型災害は、「商業」において最も多く発生しており、次いで「製造業」、「保健衛生業」、「建設業」、「運輸交通業」で多く発生している。



3. 時間帯別冬期災害発生状況 (過去5年間)

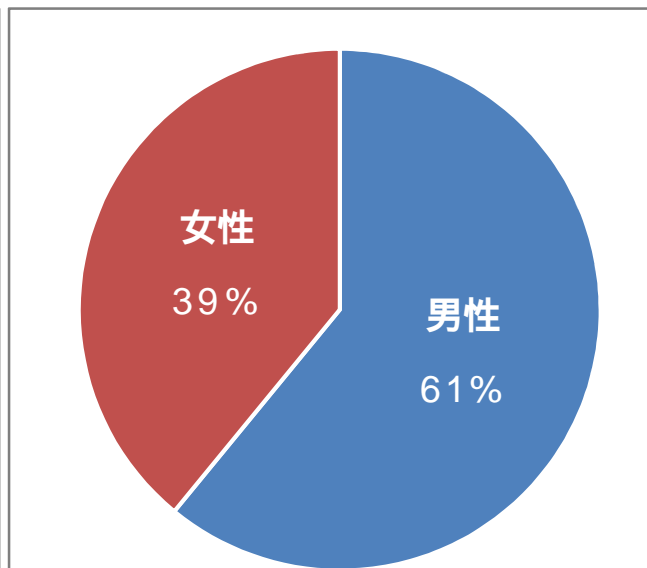
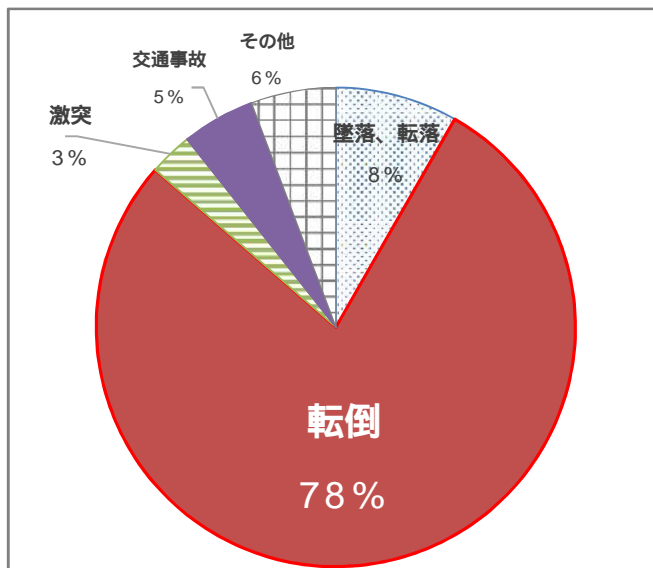
冬期型災害は、7時台(全体の15%)から8時台(同18%)、9時台(同10%)にかけて多く発生し、7時から11時までに発生した冬期型災害は全体の57%を占める。



4. 事故の型別冬期型災害発生状況 (過去5年間) 5. 男女別冬期型災害発生状況 (過去5年間)

冬期型災害では、「転倒災害」が全体の79%と最も多く発生している。

男女別に分類すると、男性474人(60%)、女性310人(40%)が冬期型災害に被災している。



6. 休業日数別冬期型災害発生状況 (過去5年間) 7. 年代別冬期型災害発生状況 (過去5年間)

冬期型災害に被災した労働者の約6割が、1か月以上休業している。

年代別にみると、50代の被災者が全体の3割と最も多い。60代以上の被災者は全体の4割を占めている。

